

在宅における特定行為実践と今後の展望

ー 創傷の治癒における壊死組織のデブリードマンを実施してー

済生会金沢訪問看護ステーション

平岡淳子

特定行為研修に行きたい！

- ▶ 創傷・褥瘡ケアの実践、研究に携わり約20年
- ▶ 皮膚・排泄ケア認定看護師としての活動11年



在宅で活かせることはないか
10年後20年後の医療に繋げるために

特定行為とは

診療の補助で、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる38行為である。病態確認の内容の類似性や行為が実施される現場のニーズなどを考慮し、21の「特定行為区分」に分類されている。

特定看護師とは

特定看護師は資格名ではない

特定行為研修を修了した看護師の名称には規定がない

特定行為及び特定行為区分(38行為21区分)

特定行為区分	特定行為	特定行為区分	特定行為
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	創傷管理関連	褥(じよく)瘡(そう)又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
	侵襲的陽圧換気の設定の変更		創傷に対する陰圧閉鎖療法
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	非侵襲的陽圧換気の設定の変更	創部ドレイン管理関連	創部ドレインの抜去
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	人工呼吸器からの離脱	透析管理関連	臍骨動脈ラインの確保
	気管カニューレの交換		急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理
循環器関連	一時的ペースメーカーの操作及び管理	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
	一時的ペースメーカーリードの抜去	感染に係る薬剤投与関連	脱水症状に対する輸液による補正
	経皮的心肺補助装置の操作及び管理	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
心嚢ドレイン管理関連	大動脈内バルーンポンピングからの離脱を行うときの補助頻度の調整	術後疼痛管理関連	インスリンの投与量の調整
胸腔ドレイン管理関連	心嚢ドレインの抜去		硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更		持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
腹腔ドレイン管理関連	胸腔ドレインの抜去	循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整
	腹腔ドレインの抜去(腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。)		持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換		持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	膀胱ろうカテーテルの交換	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整
	中心静脈カテーテルの抜去		抗けいれん剤の臨時的投与
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	皮膚損傷に係る薬剤投与関連	抗精神病薬の臨時的投与
			抗不安薬の臨時的投与
			抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整

厚生労働省令第33号(平成27年3月13日)

手順書とは

医師又は歯科医師が看護師に診療の補助を行わせるために、その指示として作成する文書

各医療現場において、必要に応じて看護師等と連携し、医師又は歯科医師があらかじめ作成すること

手順書：褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. 関節、会陰部、顔以外の部位に発生した褥瘡
2. 壊死組織に血流が認められない褥瘡
3. 感染徴候が認められない褥瘡

以上が全て認められる場合

特定行為の
対象となる患者

【看護師の診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

以下のいずれにもあてはまる。

- ☐ 意識状態の変化がない
- ☐ バイタルサインの変化がない
- ☐ 免疫不全状態ではない
- ☐ 出血傾向がない、抗凝固療法を行っていない
- ☐ 抗凝固療法中の場合 PT 80~120% PT-INR ≤ 2~3
- ☐ 壊死組織が悪性腫瘍の部位ではない
- ☐ 壊死組織の下に重要な構造物がない



患者の病状の範囲

担当医師の
院内PHSに
直接連絡



安定
緊急性なし

【診療の補助の内容】

褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の

診療の補助の内容

【特定行為を行う時に確認すべき事項】

- ☐ 施行中の出血や疼痛
- ☐ 全身状態の悪化

いずれか1項
目でもあれば

確認すべき事項

【医療の安全確保のために医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

担当医師

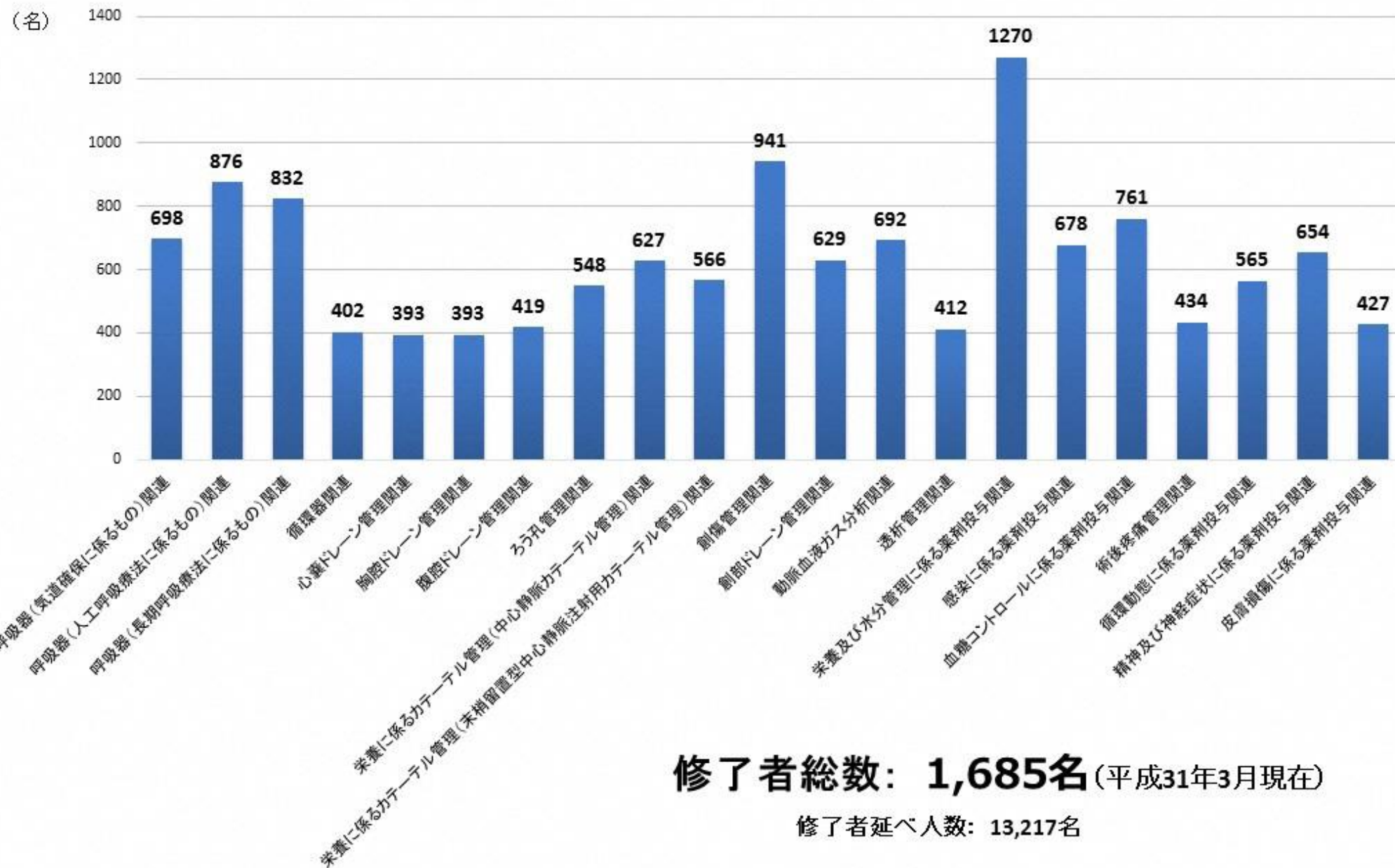
連絡体制

【特定行為を行った後の医師に対する報告の方法】

1. 担当医師の院内PHSに直接連絡
2. 診療録への記載

報告の方法

特定行為研修を修了した看護師数（特定行為区分別）

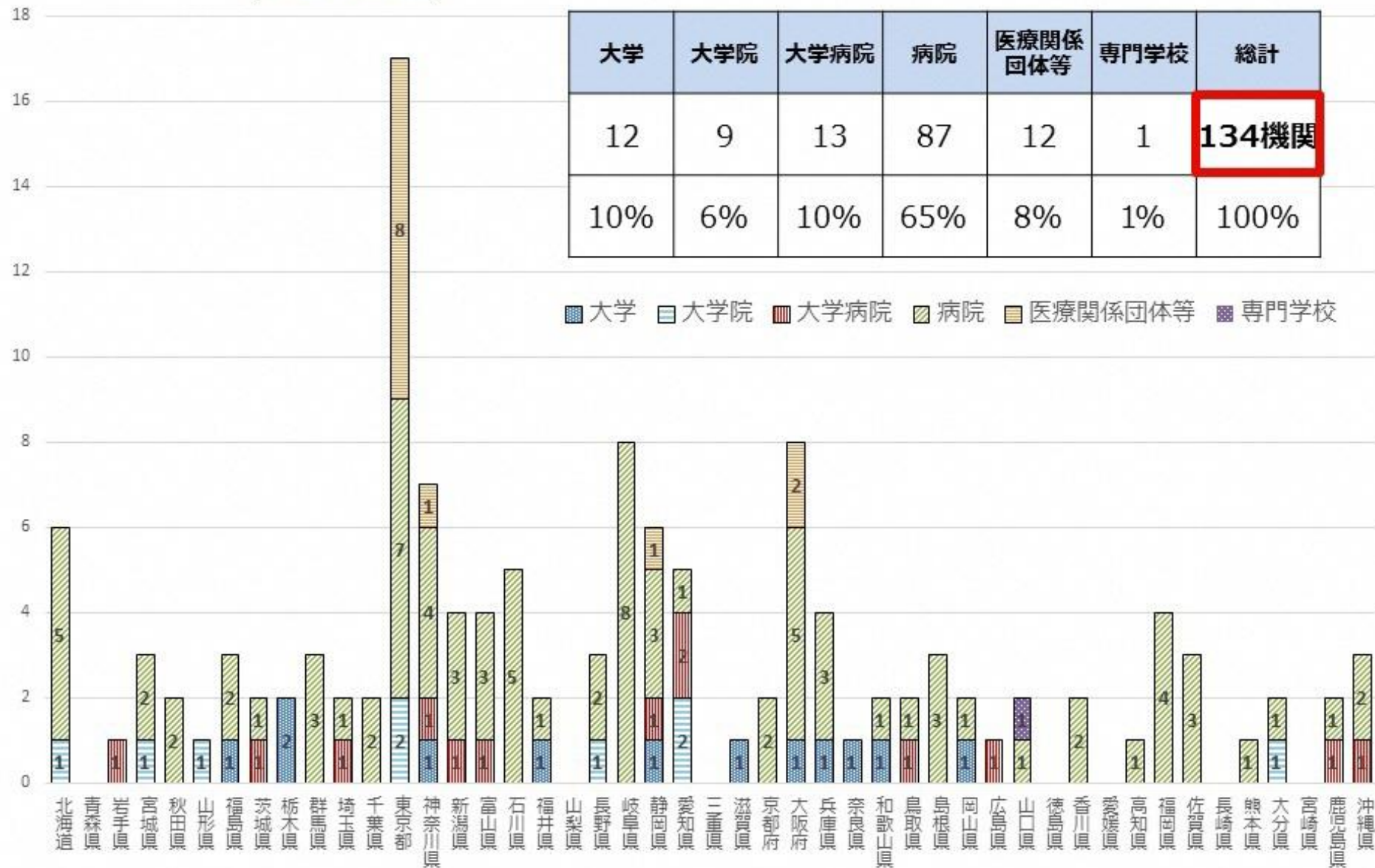


特定行為研修を行う指定研修機関の状況

■ 都道府県別指定研修機関数
(令和元年8月現在)

■ 施設の種別別指定研修機関数(令和元年8月現在)

大学	大学院	大学病院	病院	医療関係団体等	専門学校	総計
12	9	13	87	12	1	134機関
10%	6%	10%	65%	8%	1%	100%



日本看護協会特定行為研修 創傷管理モデルの教科目と時間数

共通科目	時間数 (時間)	区分別科目	時間数 (時間)
臨床病態生理学	4 5	栄養及び水分管理に係る薬剤投与	3 6
臨床推論	4 5	創傷管理関連	7 2
フィジカルアセスメント	4 5	創部ドレーン関連	1 5
臨床薬理学	4 5	研修期間 6 カ月 総時間数 408時間	
疾病・臨床病態概論	6 0		
医療安全学	1 6		
特定行為実践	3 0		
文献検索・文献検討	0		

特定行為区分	特定行為
創傷管理関連	褥(じよく)瘡(そう)又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
	創傷に対する陰圧閉鎖療法
創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血
	橈骨動脈ラインの確保
透析管理関連	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
	脱水症状に対する輸液による補正
感染に係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整
	硬膜外カテーテルによる鎮痛薬の投与

【事 例】

A氏 40歳代男性

脊髄損傷による対麻痺(Th6) 統合失調症

- ・排便、シャワー浴の援助目的にて訪問看護を2回/週利用
- ・車椅子にて日常生活はほぼ自立
- ・独居、受診や買い物以外に外出はせず1日中ベッド上で過ごす
- ・20XX年10月腹部に直接パソコンを置いて1時間以上見ていた
パソコンを除けたところ、熱と発汗により密着した右鼠径部の
表皮が剥離した
- ・受診を拒否し、市販のドレッシング剤で処置を行っていた

創傷確認後14日目の状態

部位は右鼠径部 創サイズ10.0×3.0cm
創表面には黒色壊死組織あり
緑色の滲出液多量
創周囲は発赤、熱感、腫脹はあるが
膿汁の排出、握雪感、悪臭はない

事例

アセスメント

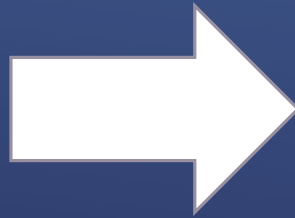
- ・壊死組織に血流がない
- ・関節・会陰部・顔・手以外の部位である
- ・壊死組織の下に人工物がない
- ・悪性腫瘍ではない
- ・感染兆候が認められない
- ・バイタルサイン、意識レベルに問題がない
- ・出血傾向、免疫不全等に関連疾患するがない



デブリードマン実施と軟膏処方を検討した方がよいと判断、担当医へ創部の写真を提示し、自宅での特定行為実施について相談

創傷確認後18日目、1回目のデブリードマンを実施
イソジンシュガーパスタで局所処置を開始
看護師の訪問日以外は、自分で毎日処置を行うよう指導

事例



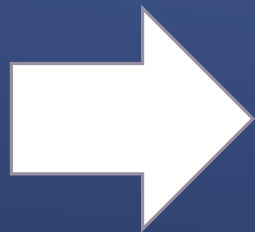
事例

デブリードマン前

デブリードマン後

創傷確認後22日目、2回目のデブリードマンを実施
イソジンシュガーパスタでの局所処置を継続

事例



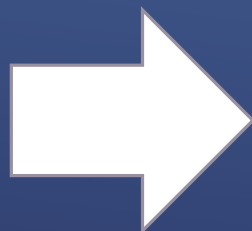
事例

デブリードマン前

デブリードマン後

市販の創傷被覆材に変更し、局所処置を継続
テープ式オムツを常時使用していたため、オムツの縁に創が擦れ、治癒
が遅延、創傷確認後93日目で治癒に至った

事例



事例

特定行為を実施することの意義

- ▶在宅における特定行為の実施は、利用者が望む療養環境で利用者の生活を重視しながら必要な医療処置を行えることが価値の一つであるといえる
- ▶医師の指示のもと、特定看護師が医療処置を行うことで、通院困難な患者に対し、在宅であってもタイムリーな創傷治療を実施でき、治癒に向けることができた

【今後の展望について】

- ▶ 特定行為実施の拡大に向け、当訪問看護ステーションと母体病院との体制確立を行う
- ▶ 特定行為を活用することで、在宅医や他の訪問看護ステーション等と連携し、幅広く創傷治療・管理に貢献する



地域包括ケアシステムの一部としての役割を担う